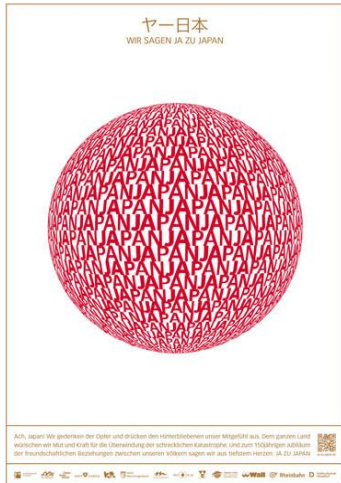


メアブッシュ便り～第1号

● 「J a z u J a p a n」ポスターキャンペーン (Plakataktion „Ja zu Japan“)

日独友好150周年と、甚大な被害をもたらした東日本大震災後の日本に対する連帯感を示すために、メアブッシュ市にある広告代理店がポスターキャンペーンを始めました。



このキャンペーンのためにデザインされたポスターには、「ヤー日本」(※) というスローガンが記されていて、メアブッシュ市とデュッセルドルフ市のいたるところで見ることができます。

このポスターは日本の国旗を特殊な手法で記したもので、国旗の赤い部分は「JAPAN (日本)」という単語を150個重ねてできており、JAの部分グラフィック技法で引き立つようにデザインされています。

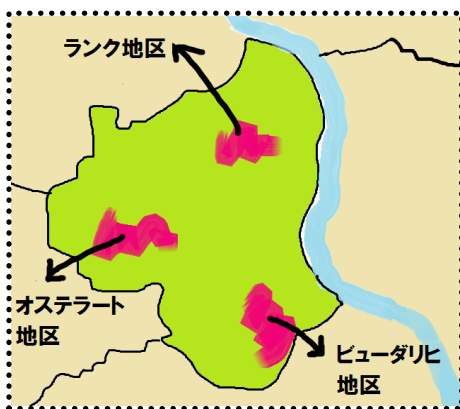
タイトルである「日本 (日の昇る国)」は金色の文字で描かれています。

(※) ドイツ語の「J a (ヤー)」は日本語の「はい」あるいは同意や賛成を意味し、「J a (ヤー) と言えば J a p a n (ヤーパン)」、つまり現在困難な状況下にある日本に対して、「私たちは日本に協力します」という意思を表わしてくれています。

● 手工業者と農家の青空市場 (メアブッシュ市・オステラート地区) と

エコマーケット (メアブッシュ市・ランク地区)

(Handwerker- und Bauernmarkt in Meerbusch-Osterath/ Ökomarkt in Meerbusch-Lank)



ドイツには、日曜日と祭日の商店の営業を規制する法律があり、メアブッシュ市のあるノルトライン・ヴェストファーレン州では、年に4日だけ、日曜日でも商店の営業が許可されています。

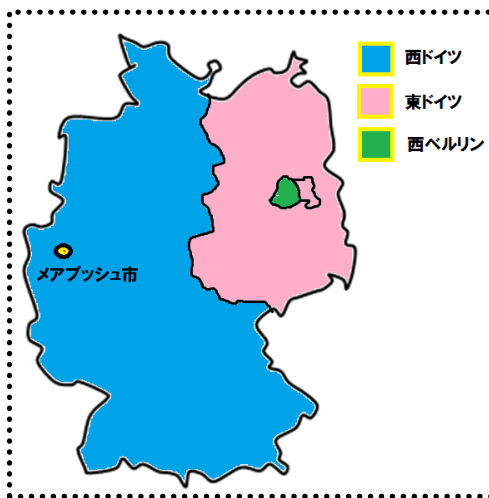
この「オープンサンデー (販売店が営業している日曜日)」とも呼ばれる日曜日には、市内の各地区で特別なイベントが開催されます。

その1つとして、メアブッシュ市・オステラート地区では、5月に青空市場が開催されました。市場では、手工業者や小売商、農家の人々が、色とりどりの屋台で様々な物を販売しました。

メアブッシュ便り～第1号

また6月にメアブッシュ市・ランク地区で開催されたエコマーケットでは、環境問題が最大のテーマで、最新のエコ製品がたくさん並びました。ワインやお花、自家製のパンと並んで、アフリカ産のコーヒーやアジア産のお茶なども売られていました。

●ベルリンの壁 - メアブッシュ市に (Berliner Mauer – Mauerstücke für Meerbusch)



1989年11月9日に起きたベルリンの壁崩壊は、歴史的な出来事でした(※)。ベルリンの壁は、28年以上にわたりドイツを東西に隔てる分断の象徴でした。残った壁の一部は、ドイツ分断の歴史を忘れないために、また1989年の平和的革命的証拠として、世界中に寄贈されました。メアブッシュ市にも寄贈された壁がいくつかありますが、新たにポツダム広場の近くにあった2枚の壁が、2011年5月23日に市内の中高等学校の校庭に建てられました。

(※) ベルリンの壁

1945年に第二次世界大戦が終結し、ドイツはアメリカ・イギリス・フランスが占領する西ドイツと、ソビエト連邦(現在のロシア)が占領する東ドイツに分割されました。この時、ドイツの首都であったベルリンも東と西に分けられ、西半分がアメリカ・イギリス・フランスによって共同統治されることになりました。

西ドイツと東ドイツの国境には鉄条網が張られ、自由に行き来することは困難でしたが、決められた道路または鉄道を使えば、西ドイツと西ベルリン間は比較的容易に移動することが出来ました。その後、東ドイツから西ベルリンを経由して西ドイツに移住する人が増加したため、人口の流出を恐れた東ドイツ政府は、1961年の8月13日を境に、西ベルリンを囲むように大きな壁を建設しました。これが「ベルリンの壁」です。「ベルリンの壁」の建設後も、東ドイツから多くの人が壁を越えて西ベルリンに行こうとして逮捕されたり、殺されたりしました。

「ベルリンの壁」は、1989年に人々によって破壊され、翌1990年には東西ドイツは再統一を果たしています。

メアブッシュ便り～第1号

●メアブッシュ市・ビューダリヒ地区で射撃大会 (Schützenfest in Meerbusch-Büderich)

射撃大会は、伝統的な市民のお祭りです。大会では射撃競争が行われ、最優秀射手「射撃王」が選ばれます。小鳥を撃ち落とす射撃競技会では、現在では本物の小鳥を撃つのではなく、木製の鳥型が使用されています。一列に並ぶ木製の鳥型の中で、最後の1羽を撃ち落とした射手が「射撃王」となります。

メアブッシュ市最大の射撃大会は、毎年夏の初めにメアブッシュ市・ビューダリヒ地区で開催されます。今年は、6月11日から15日にかけて開催されました。大会には、1000人の射手と350人の楽団員が参加しました。制服に身を包んだ射手と楽団員は、期間中何度もまちを練り歩き、大勢の観客でにぎわいました。また射撃大会のテントでも大いに盛り上がり、テントの周りにできた移動遊園地には大勢の人が詰めかけました。

●ニーダーライン地方 サイクリングデー 2011年7月3日 (Niederrheinischer Radwandertag am 3. Juli 2011)

毎年7月の第1日曜日になると、大勢の人がライン川とマース川沿いにある名所旧跡を目指して、様々なコースを自転車で走ります。

スポーツとしての楽しみもそうですが、自分たちの住んでいる地域を自転車で走りながら新たな発見をしたり、その素晴らしさを再認識したりすることに重点が置かれています。

10年前からこのイベントに参加しているメアブッシュ市は、数多くあるサイクリングコースのスタート地点とゴール地点を担っています。

シュピンドラー市長が午前10時に公式スタートの号砲を鳴らした後は、参加者は一日中好きな時に出発することができます。この日は、市役所の裏庭で夏祭りが開催され、音楽の生演奏や多彩なイベントが繰り広げられました。また、子ども向けの催しやサイクリング参加者のおたのしみ抽選会も行われました。

今年は、シュピンドラー市長がメアブッシュ市在住の日本人市民と家族を、様々な名所旧跡を楽しむことのできる特別コースに招待しました。日本人とドイツ人、老若男女35人がこの特別コースに参加し、およそ3時間で24kmを走りました。

メアブッシュ便り～第1号

● F I F A女子ワールドカップ 2011 (Frauen-Fußballweltmeisterschaft 2011)

6月から7月にかけてドイツで開催されたF I F A女子ワールドカップ2011 (※)でも、メアブッシュ市は注目の場所となりました。メアブッシュ市・ビューダリヒ地区の競技場で、予選Dグループ1位通過のブラジルチームに続いて、予選Aグループ1位通過のドイツチームがトレーニングを行いました。ドイツ女子チームの公開練習を見ようと、約2000人の観衆が競技場に足を運びました。

日本チームがこの競技場でトレーニングを行うことも期待されましたが、そのためには予選のグループリーグを1位で通過することが前提条件でした。日本チームは予選Bグループ2位通過だったため、1位通過のイングランドチームがこの競技場で練習しました。

7月9日に行われた日本対ドイツの準々決勝では、日本チームが勝利をおさめました。ドイツチームのワールドカップがそこで終わってしまったのは悲しいことですが、日本の選手たちがこの女子ワールドカップでこの後も幸運にも恵まれて、さらに突き進むことを祈りつつ、今後の活躍を期待しています。(7月11日現在)

(※) F I F A女子ワールドカップ 2011

1991年の第1回大会から4年に1度行われている女子サッカーの世界大会は、今年ドイツで開催され、約16のチームが大会に参加しました。日本のナショナルチームは「なでしこジャパン」の愛称で親しまれ、7月9日に行われたなでしこジャパン対ドイツの試合は、1対0でなでしこジャパンの勝利に終わりました。その後の試合も勝ち進んだなでしこジャパンは、6回目のワールドカップ出場にして初の優勝を手にしました。